

第1部

東京外国語大学・神戸市外国語大学 第9回大学院合同セミナー 神戸市外国語大学および東京外国語大学の教員、在学学生限定

ヤング・スカラーズ・セッション

12月23日(水)16:00~17:30 Zoomウェビナーでのオンライン開催

- 使用言語: 日本語、英語
- 参加費: 無料
- 事前申し込みが必要です。



参加を希望する両大学関係者は、12月18日(金)正午(日本時間)までに、上記QRコードを読み取り、参加登録フォームより事前登録をお願いいたします。第2部の登録も可能です。

- ホームページからも登録できます。

URL: http://www.tufs.ac.jp/event/2020/201118_1.html

■報告

小谷 七生 (神戸市外国語大学、博士後期課程大学院生)

「蟻の街」の貧困と女性-1950年代のメディア表象を手掛かりに

Carlo Stranges (Tokyo University of Foreign Studies, Doctor-Course student)

“Next Time and Now: an analysis of James Baldwin’s resurgence in the Black Lives Matter era” (英語報告)

■司会 中山 智香子 (東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授)

■コメンテーター 逆井 聡人 (東京外国語大学世界言語社会教育センター講師)

Matthew Theado (神戸市外国語大学外国語学部教授) (英語によるコメント)

第9回 大学院合同セミナー BLM連続セミナー 第3回

社会の中の分断と融和

一般公開

第2部

かつての奴隷制、強制労働や植民地主義を経て成立した国々の社会には、現在もその歴史と影響が残っている。米国での黒人への差別と同様に、フランスやイギリスをはじめとしたヨーロッパの国々でも、主に旧植民地の国々にルーツを持つ人々や移民への差別が残る。奴隷貿易や植民地経営はグローバル経済としての営みであった。BLM運動に顕れた社会の中の分断も、資本主義経済の進展の帰結と捉えることができる。本セミナーでは、米国、フランス、そして日本において、かつては少なくとも被支配層や経済的弱者ではなかったはずの人々が差別や暴力へと追い立てられる経済的背景について考える。また、広がりつつあるように見える社会の分断から融和へとつながる道を探るべく、反人種主義をめぐる思想的な考察についても深める機会としたい。

12月23日(水)17:40~19:40 Zoomウェビナーでのオンライン開催

■プロフィール

出町 一恵

(東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授/
現代アフリカ地域研究センター)

専門は国際経済学、金融論、開発経済論。サハラ以南アフリカやアジアの低開発国のマクロ経済、特に金融や債務の問題などをテーマに研究している。今年は新型コロナの影響で留学を中断したり帰省をとりやめたりした学生たちと、Thomas Pikettyの*Capital and Ideology* (2020) やDavid Graeberの*Debt* (2011) を輪読した。

太田 悠介

(神戸市外国語大学 総合文化コース准教授)

専門は思想史、フランス思想。現代フランスの思想家エティエンヌ・バリバルを中心として、20世紀後半以降に現れた政治と共同性をめぐる思想を研究している。近年はポスト植民地時代の移民社会という現代フランスの課題を視野に入れて、思想と社会のはざままで考察を進めている。主な業績として共訳書『フランスというつぼ』(2015)、『民主主義の発明』(2017) など。

■共催

神戸市外国語大学大学院外国語学研究所、東京外国語大学多文化共生研究創生WG、大学院総合国際学研究所、現代アフリカ地域研究センター、海外事情研究所、国際日本研究センター

African Weeks 2020



「Jafrika～君と私とアフリカ～」

(2020年11月30日～12月18日開催)

東京外大アフリカ地域専攻の学生が主体になり開催されるイベント、アフリカンウィークス。アフリカと日本を主なテーマに、「共生」について今こそ考えてみませんか？

<http://www.tufs.ac.jp/asc/news/AW2020.html>

